

新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方 TEL025-222-9548

県山協 海外登山研究会に参加して

九期山の会 田中朋子

9月28日(土)夜、万代市民会館に於いて、海外登山委員会主催の「ナンガ・パルバット登頂成功の報告会」があると聞き出かけてきた。

これは、千葉工業大学山岳部OB会のメンバーによる、1995年7月23日、北面側から頂上に至る新ルート開拓の成功、という快挙であったという。当時、報道されたか否か、私の記憶には全くなかったが、「魔の山」と呼ばれるナンガに、新ルートを開拓した日本隊の隊長の話が聴けるとあって、大変興味のそそられるものであった。

海外登山はおろか、国内の登山ですら未熟な経験しかない私にとって、8千メートル級の山にアタックすることなど、別世界の出来事に他ならず、そこに登頂してきた人となれば、俗な言い方をすれば「芸能人」を見に行くようなものである。

しかし、その隊長 坂井広志氏は、芸能人とは程遠い方であった。身体的にさして大きくもなく、強靱そうでもなく、一見して「山ヤ」と見える要素は何も感じられない方であった。細身の身体にソフトスーツがよく似合い、年令よりも若く見える優しげで整った顔立ちの、物静かなフツの男性であった。

「報告」は、私のような素人にもでも理解できるようにとの配慮からか、美しいBGM付きVTRとスライドで、視覚、聴覚をうまく刺激し、実際にコンパクトに、わかりやすくまとめられたものであった。

VTRは、ナンガや周囲の山々の、スケール違いの風景や、『どうやって撮ったんだろう……』と思ってしまうほど、ほとんど垂直の氷壁を登る人の足先や、足の間のスッポ抜けた空間にザイルがつながっている人等、臨場感と迫

力に満ちた映像、アイゼンがカシャン／カシャンと氷にくだく音、一歩一歩を登る激しい息遣い等の音を伝えてきてくれ、どんどん、どんどん画面に引き込まれていった。そして、それらが作られた映像ではなく、まぎれもない本物の映像であることに感動した。見終わった時には、まるで自分が8千メートルの頂上に、苦悩しながら到達したかのような脱力感を伴う錯覚と、何とも言えない充実感を味わうこととなった。まさに「バーチャリアリティ」である。

この登山は、1992年の偵察行より3年間、周到に準備を重ねた後、実現できたこと。隊の母体の「千葉工業大学山岳部OB会」は、過去に、ネパールのアンナプルナ・サウス、パキスタンのカンジュット・サール、その他にも数多登頂しており、実力のある会であったということだが、成功の要素の一つであったことは間違いないと思う。この登山の原動力となっていたのは、坂井隊長の、ナ

ンガ・パルバットに対する、深い強い思いだったのであるまいか。最初に目にした、ナンガの山容や稜線に直感的に湧いた「登りたい」「登れる」という、一点の感情からスタートしたのだから。そんな思いを成就させるために、3年を要してでも成功させることができた裏には、いろいろな面で、大変なエネルギーを費やしてこられたことがあるのだろう。そして、坂井隊長のその思いを支えてきたのは、偵察行にも同行され、また報告VTRのBGMの選曲にも想いを込められた奥様や、OB会の先輩や仲間達、そして同じような夢を持つ多くの岳人達に他ならないのである。

行事日程の案内

理事会 3月16日
評議員会 4月12日
国体予選会 4月26日～27日

報告会が終わり『あー、来て本当によかった』と心から思った。私には到底経験することのできない分野と思っていたが、お酒を飲みながら坂井氏が言われた。「BCまですよ」と。そうだ。よし、私は、BCの人になる。アタック隊が安らぎを求めて帰って来る場所の仕事人になろう。

第1回パーマークカップ大会

1996年11月10日

稲田春男

迫力ある山の姿を、毎日毎日眺めて過ごせるなんてすごい。なんだか、頑張れば、私にでも手の届くような目標がきそう。県山協でも、1990年の、パンジャブ・ヒマラヤ遠征に続く第二弾を、是非とも実現させて下さい。応援します。

クライミングの面白さを知ってもらおうという目的でビギナーを対象にした大会を長岡市で行いました。

また結果、男子3名、女子5名が同点数となり、トップロール、オンサイト方式でファイナルを行い、男子では長岡造形大学の池津君、女子ではハングオーバーズの先名さんが見事優勝されました。

成績

ルートを作り点数で順位が決まる大会ルールにしました。場所は長岡市のスポーツショップ、パーマークのクライミングウォールを利用していただきました。しかも参加者、入賞者には若林社長よりたくさん豪華商品を用意してもらいました。感謝、感謝の一言です。

- 男子の部
 - 1位 池津敏行
 - 2位 南雲春城
 - 3位 田中孝奉
- 女子の部
 - 1位 先名哲子
 - 2位 佐藤千晴
 - 3位 吉田華子

特別賞

- 中野貫一 岩本洋子
- パフォーマンス賞 鏡原聖史 佐々木純子

『夢、自由、創造、未知、悠久、困難……等々人間の追い求める可能性を登山という行為に見だし、自然(山)と人間(登山家)との関わりを人生にとって価値あるものと位置づけ、ナンガ・パルバットで実践してみたいというのが発想の原点です。そしてその成就に向け、私達は強固な意志を持って体力・技術を研

大会は、長岡市を中心に男子24名、女子10名の参加があり、にぎやかに大会が行われ

登山は、人生は、自分の想いの深さと同じに、深く、力強く、そして愉しくもなるものなのかもしれない。

「落ちた、負けた、
……気分は超BAD!!」

第1回 Par Mark Cup

C . S

あの日のことは忘れたの。思い出したいくないのよ。心が痛むの。

云うぞ堂々……そうよアタシは高所恐怖症。高いところは鬼門なの。酒でも飲まずにあんなところに登れるかい。カベにへばりつけてかい。ヒモ一本でブラブラ下がれてかい。それでどうしてクライマー。なんでわざわざクライマー? なんかない。腕た

最後の一手がツルリと滑ったあの瞬間、私は奈落の底に落ちたのね。なぜ滑る。暑くもないのに、なぜあそこで手に汗だ!

ファイナル前に飲んだ菊水五郎八ワンカップのせいだろ。そりゃーオマエ、なんて言葉でムチ打つ輩もいるのは知っているね。でもでも違うの、そんなオヤジな酔っぱらいとは違うのよ。アタシのにはちゃんとした、そりゃもう立派な、レッキとした訳があるのよさ。

でもって、オマケに自慢じゃないが、エッヘンアタシは四捨五入しちゃうば四十路の女。ホントはアダルトなおねえさまなのよん。

それが何が悲しくて、ハタチやそこの小僧どもと一緒

になつて……師匠なんかひとまわりも年下でさ、このスポ根野郎がビシバシといたぶるのよ……毎日アザつくつて血流してやっつてんのよ……泣きながら登つてんのよ、アタシなんかさ——。

なんで狙うか。それでどうして狙える一等賞だつてだつて欲しかったのよ。どうしたつて勝ちたかつたんだもの。一等とつてはげみにしたかつたのよ。

そうよアタシには夢がある。——見上げれば満天の星空。見下ろせばはるかな谷底——そんなビッグ・ウォールで岩にブラ下がつて眠ること……それが夢なの、夢なのよう。やれるじゃないノイケるじゃない。アタシでも……ノつて。一等もらつてそう思ひたかつたのよう。

雑誌で見たのよ。そんな写真。もちろんアタシは筋金入りの怖がりやさん。そんなときやよもや。自分もそこに……なんてエ、チラとも頭をかすめなかつた。でも、不可能に近いけりや近いほどあこがれてのさばるものなのね。

どうしたはずみかクライミング業界に弟子入り半年。こんなアタシに誰がした。今シーズンには、アイスクライミングまでしちまいましたよ。高いのイヤーン、寒いキライ、このアタシ。ずいぶん遠くへ来たもんだ。

思いこめたらこつちのものだ。うまく転がりやナントカなるつて。バイル2本水に残して身だけ落ちてるアタシが云うんだ、まちがいない。

読者諸兄。要はきつかけだ。とつかりだ。それささありやあ。明日にはアタシもめくるめくクライミングの華麗な世界へ仲間入りよ。

さあ、次の大会は5月。参加費1500円握りしめて走れノパーマークへノ。

各賞イロイロ。もれなく豪華品付きだノ派手にキメときゃ、ベストドレッサー賞。ズボンが脱げても特別賞だノ。ねエねエアタシ次はアタシミドリにしようかしら……この前ピンクだったしさ。そんなことより実力UPに心を砕けノハイハイ

ギョーカイは門戸を開いて

理 事 会 報 告

待っている。そろそろアタシもオート弟子ができてもいい頃ね。手取り足取り教えてあげてもよかつてよ。

——でもね皆さん。悪いけど優勝カップはあきらめていただくわ。

今度こそ一等賞はこのあた

くしがGeet!!いたしましてよ。ホーホホホ……

——つて こんなのホントに載せてくれるのかしら……知~~~~らないよつと……

オワリ

期日 平成9年1月19日
会場 長岡市 東泉閣
議題 審議された議題のみ掲載します。

1、規約の一部改正について
(分担金の値上げ、規約第19条に定める別表の改定)

別記
2、予算の統合(一本化)について(予算の編成)

収入 自主財源(分担金、各事業参加費、資格会費) 補助金、助成金、雑収入

支出 一般経常経費、各委員会の自主事業運営経費

(1) 各委員会は、翌年の事業計画とその予算を策定

(2) 各委員会は、従来どおりその主管する予算を執行し、経理する。

(3) 事業の運営にあたり事業の変更・増減等の事由により予算上補正の必要を生じた場合は、その都度、総務委員会と協議する。

3、創立50周年記念事業について 祝賀会

（現 行）		（改 正）		（ 計 ）	
		（均等割）	（人数割）		
20名まで	15,000 円	20,000 円	0 円	20,000 円	× 36団体 720,000 円
21~50	16,500 円	20,000 円	4,500 円	24,500 円	29 710,500 円
51~100	18,000 円	20,000 円	9,000 円	29,000 円	6 174,000 円
101以上	21,000 円	20,000 円	18,000 円	38,000 円	4 152,000 円
					計 1,756,500 円

記念山行
記念誌の発刊

山岳写真展はJAC越後支部と共催で11月23日終了。

総務委員会で次期の理事会(3月16日)に提案する。

4、役員の変更について
役員の変更期(4月)に
当たり改選したい。

5、クライミングウォールの
設置について
(北信越国体の施設整備
について)

6、平成9年度 評議員会

①開催月日、会場等の決定

②議題等につ

いては、次
期の理事会
(3月16日)
に諮るよう
に作成する。

7、その他

新年会スナップ



望月参与
体育功労賞の伝達



理事会での
鈴木協会長挨拶



盛大に声高らかに乾杯



JAC越後支部
加盟団体代表挨拶



宴たけなわにはまず一杯



談笑記念に1枚

登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736



山田理事による
協会の発展の発声